

4 胃がんリスク検診の導入について

【質問1回目】

○藤浦雅彦議員 胃がんリスク検診の導入についてでございますが、市長におかれましては健康施策としてことしから高齢者肺炎球菌ワクチン助成制度創設の英断をくだされましたことに感謝を申し上げたいと思います。

さて、先日、国会において胃潰瘍患者のピロリ菌の除菌についての保険適用が認められましたが、これは、胃がんにもピロリ菌感染が深くかかわっていることが認識されているからであります。

ピロリ菌感染のない人から胃がんが発生することはごくまれであり、またピロリ菌感染によって胃粘膜の萎縮が進むほど胃がんが発生しやすくなります。胃粘膜の萎縮の程度は、胃から分泌されている消化酵素ペプシンのもとになります。ペプシノーゲンという物質の血液中の濃度を測定することによりわかります。基準値以下の人は6倍から9倍胃がんになりやすいことがわかっています。胃がんリスク検診（ABC検診という）とは、ピロリ菌感染の有無、血清ピロリ菌と胃粘膜萎縮の程度、いわゆる血清ペプシノーゲン値を測定し、市民が胃がんになりやすい状態かどうかAからDの4群に分類する新しい検診法です。血液による簡単な検体検査であり、特定健診などと同時に行うこともできます。

この胃がんリスク検診は、がんそのものを発見する検査ではありませんが、胃がんになる危険度が極めて低い、ピロリ菌の感染がなく、胃粘膜が健康な人たちをバリウム検査などの対象から除外し、ピロリ菌に感染し、またはかつて感染をして胃粘膜に萎縮のある人たちには胃がんの存在を確かめる精密検査を受けていただくものです。

最近、ピロリ菌に感染していない割合が増えており、多くの人たちがこういったバリウ

ムによる検査を受けないで済む点が大きなメリットです。

胃がんは、ピロリ菌による感染由来のがんで、ピロリ菌を除菌することで胃がんの発生を3分の1に減らせます。単に胃がんによる死亡者の減少を目指すだけでなく、除菌治療で胃がんの発生を予防し、それから精密検査で早期胃がんを発見し、内視鏡治療で完治させることを重視しています。胃がんリスク検診により、胃がん発生の危険度がわかった人は、専門医で内視鏡検査やピロリ菌除菌を行う。そして、内視鏡検査で発見された早期胃がんに対してはリスクの低い内視鏡治療を行うことこそが、ピロリ菌時代に理にかなった胃がん対策であります。

茨木市では、ことし6月より、この胃がんのリスク検診を導入されていますけれども、本市における導入の考えはないのか、お答えをお願いいたします。

【質問1回目への答弁】

○堤保健福祉部長 胃がんリスク検診の導入についての考え方のご質問にお答えいたします。

胃がんリスク検診とは、胃粘膜萎縮の程度を調べる検査と、ピロリ菌の有無を調べる検査を組み合わせ、胃がんになりやすいかどうかを調べる検査ですが、市ではこれまでの胃がん検診は厚生労働省が示している胃がん検診ガイドラインに基づき、バリウムを飲んでいただき、X線で胃を透視する方法で実施してきております。

胃がん検診の検査方法は、このほかに胃内視鏡検査、胃がんの危険度が高いと言われていた萎縮性胃炎の進行度を図るためのペプシノーゲンの血液の濃度を測定するペプシノーゲン法、胃粘膜の萎縮に関与し発がんの原因とされているヘリコバクターピロリの血清抗体を

～会議録抜粋～ 会議録より抜粋し、「一問一答形式に編集」したもので正式な会議録ではありません。

===平成25年第2回定例会 一般質問===

藤浦雅彦議員

4 胃がんリスク検診の導入について

測定するヘリコバクターピロリ抗体法及び各種の併用法などがございます。

市町村における胃がん検診の見直しについて検討されている厚生労働省の審議会であるがん検診に関する検討会においても、市町村が実施する対策型検診といたしましては、死亡率減少効果が認められている胃X線検査が推奨されているところから、今後も現在の方法で実施してまいりたいと考えております。

【質問2回目】

○藤浦雅彦議員 胃がんリスク検診の導入についてですが、胃がんのピロリ菌の関与が認められている中で、画期的な検査方法として茨木市が導入したのを始め、高槻市を初め多くの市で検討もされ始めています。

導入に向けては、府下では次々に始まっていくと思いますし、今後、導入を目指して他市での取り組みを研究していただきたいと思いますが、本市の考え方について、ご答弁をお願いいたします。

【質問2回目への答弁】

○堤保健福祉部長 胃がんリスク検診の実施に向けた研究についてのご質問にお答え申し上げます。

胃がんリスク検診方法は、胃がんの原因とされるヘリコバクターピロリ菌感染と、胃の粘膜の萎縮を血液で調べ、その後の対処法や検査機関を3年、2年、毎年と判定することができますので、検査を受ける人には負担が少なく、検査費用の削減にもつながることが期待されております。また、それに伴い、導入をする自治体や企業が出始めているところがございます。

厚生労働省のがん検診のあり方に関する検討会におきましても、市町村が実施する対策型検診の指針の見直しの一環として検査方法が有効か検証を進めているとのことござい

ますので、今後、研究結果に注視しながら研究してまいりたいと存じます。

【質問3回目】

○藤浦雅彦議員 胃がんリスク検診の導入につきましては、府下ではまだまだ茨木市だけのようにございますが、今後は、茨木市や他市の事例も研究をしながら、また、医師会とも相談をいただきながら、先進的な取り組みに踏み切れるように、これは強く要望しておきたいと思っております。